

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:永井円香 所属:福井県立福井東特別支援学校 記録日:平成29年 2月23日

キーワード:コミュニケーション、表現、健康管理、自信、見通し、達成感、不安、動画・写真

【対象児の情報】

・学年 高等部2年生女子(生徒A)

知的な面では2歳程度の発達段階である。言葉での指示はほぼ理解できているが、発語は「いや」「ありがとう」「あっち」「ばいばい」などの数語である。嫌だと思ったときや苦手だと思ったときは、物を投げつけたり蹴ったり、騒ぐことがある。

・障害名 慢性腎不全、知的障害

・障害と困難の内容

- ・苦手なことや予測がつかないこと、やりたくないことがあると騒いだり、人や物にあたったりする。
- ・昨年度の定期健康診断時には、怖がったり嫌がったりして受診できなかった。
- ・日によって感情の起伏が激しく、突然怒り出すことがあり周囲の者は原因が分からないことが多い。

【活動目的】

・当初のねらい

学習目標:情緒が不安定な子の困り感に養護教諭が担任と協力してできること～自分のからだの健康に注目して～

【活動1】ICTを活用して定期健康診断の項目についての事前学習に取り組むことで、不安や恐怖心を感じることなくスムーズに受けられる。

【活動2】日々の健康状態をiPadを活用しながら確認することで、自分の健康に注目したり、担任もその健康状態から本人の辛さに寄り添った対応をしたりする。

・実施期間

【活動1】平成28年4月9日～5月27日

【活動2】平成28年6月～平成29年2月17日

・実施者

【活動1】担任・養護教諭

【活動2】担任・養護教諭

・実施者と対象児の関係

【活動1】担任:事前指導や本番前の練習を指導する、本番の様子を振り返る。

養護教諭:事前指導に活用する教材作成、本番前の練習を実施する。

【活動2】担任:日々の顔写真や気持ち、日々の様子をiPadに記録する。

養護教諭:入所施設からの血圧や体重のデータを蓄積する。

【活動内容と対象児の変化】

【活動1】

・対象生徒(A)の事前の状況

昨年度、生徒Aは定期健康診断時に、iPadを活用した事前指導を行った項目はスムーズに受けることができたが、事前指導をしていなかった項目では騒ぐ様子が見られ、生徒Aにとって多大な精神的ストレスをかけることになった。

また、生徒Aには慣れた教員とはできることが新しい教員に担当が替わるとできなくなるという傾向があっ

た。各定期健康診断は早期に実施されるので、担任が替わった場合にスムーズに受けることができるための配慮が必要だと考えた。

・活動の具体的内容

(準備)

各検査・検診の流れを iPad のカメラ (図1) と、iMovie (図2) を用いて動画編集を行い教材を作成した。



図1

図2

動画作成時に注意したことは、前担任をモデルにして親しみやすく興味を引くようにしたことと、当日検査や検診が行われる場所で当日使用する物品などを用いて本番に近いものにしたことである。

作成した教材は、魔法のプロジェクトで借りている iPad に加え、学校の iPad にも保存し、多くの教室で持ち運び学習ができるようにした。また、学校の児童生徒が閲覧できる共有のフォルダにも保存しパソコンやプラズマテレビでも見るようにした。さらに、年度初めの職員会議にて、事前指導に動画を活用してほしい旨を周知した。

(事前指導)

担任やクラス担当教諭が中心となり事前指導を行った。個別指導時には iPad で、集団指導時にはデータサーバーを通してプラズマテレビで事前学習を行った。生徒Aは、担任と教室で iPad で動画を見て学習し (写真1)、その後保健室にて養護教諭が医師役をしながら練習を行い (写真2)、本番に臨んだ (写真3)。



写真1



写真2



写真3

・対象児の事後の変化

(健康診断)

生徒Aは全項目事前指導を行った結果、今年度の定期健康診断は、すべて教員の介助なく一人で受けることができた (表1)。これは、iPad の動画と音声で事前指導や事前の練習をしたこと、項目は違うが何度も事前指導・練習・本番・振り返りという同じ手順で実施したことで、健康診断への見通しがもてたこと、それにより不安が軽減されたからと考える。また、事前指導では、担任が生徒Aの心理状況などを考慮して事前指導の時間や場所を選択し負担をかけないように工夫したこともよかったと考える。



写真4



写真5

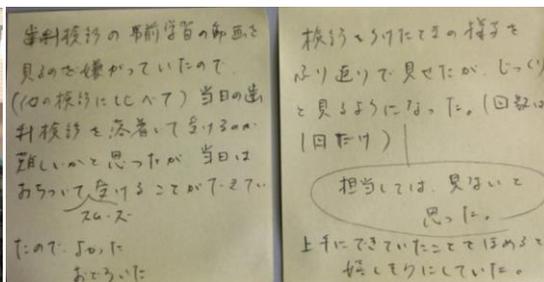


写真6

本番直前には、先にクラスメイトの受診の様子を見てから受ける等さらに見通しがもてるように配慮したことも落ち着いて受けることができた要因であると考え。受診後には、自信に満ちた表情も伺えた (写真4)。また、受診の様子を iPad で撮影し、後からその動画を見て振り返りを行い、上手に受けることができた褒める

ことで、さらに生徒A自身の達成感を得ることもできたと考える（写真5）。担任から全体を通しての感想を書いてもらったが、受診できないかなという担任の不安をよそに、一人で受診し、その後もうれしそうにしている生徒Aの姿に担任も驚いていることが分かった（写真6）。

	平成27年度	平成28年度			
	エピソード	担任と事前学習	養護教諭と事前練習	本番	担任との振り返り
耳鼻科 検診	泣き叫び、教員が補助して受けた	○	○	4/21 ◎	
		4/20 最初は画面をジッと見た後、ちらちら見て、iPadを操作したがる。	ぼかんとした様子で、身をまかせている。	落ち着いてすべて一人で受ける。笑顔見られる。	
内科 検診	意外にもすんなりと受けることができた	○	×	5/25 ○	○
		5/24 2回、自分で指さしながら見るなど、教師とやりとりする。 5/25 ちらちらと1回見る。		落ち着いてすべて一人で受けることができる。順番待ちの時間や診察の時間が長かったが、笑顔で終了。	5/26 じっと見ている
歯科 検診	嫌がり教員が補助して受けた	○	×	5/26 ○	○
		5/25 嫌がり、iPadを押しつけようとする。		担任がクラスメイトの様子を見させてから受ける。笑顔で終わることができる。	5/27 じっくり見ている。嬉しそうにし、花丸を要求していた。

表1 健康診断時の様子

・対象児以外生徒の事後の変化

生徒A以外の生徒でも、個別指導で4人（中学部1人・高等部3人）、集団の授業の中で1回動画を活用した事前指導を行い、昨年度は受診することができなかった生徒2人が、今年度は受けることができた。

今回の教材を活用した教員から、感想やエピソードを簡単に報告してもらった。集団指導に活用したクラスでは、『(分かりやすいと) 拍手をしていた』、iPadを使った個別の指導では『言葉で説明してもあまり聞いていないが、ビデオを見せるとジッと見ていた。』『初めての検診だったが、ビデオを見てからだったからかなりリラックスしていたように思う』『動画の画面を見ることはできなかったが、音声による説明はじっと聞いている様子があった。動画は、視覚的にも聴覚的にも情報を伝えられるため、どちらか一方の情報しか受け取れない生徒にとってはありがたいと思う。』などの、意見があった。こうしたことから、動画を活用した事前指導の効果があったと考えられる。

【活動2】

・対象生徒の事前の状況

生徒Aは、学校生活の中で突然、何が原因か分からずパニックを起こしたり、不機嫌になったりすることがあり、本人も周りの教員も困っていた。



・活動の具体的内容

養護教諭の視点から、突然パニックを起こすのは、持病の慢性腎不全の影響で登校したときの体調に関係があると仮定し、日々の血圧や体重のデータと1日の様子を比較することにした。

担任に、(図3)の「PhotoMemos」というアプリで本人の顔

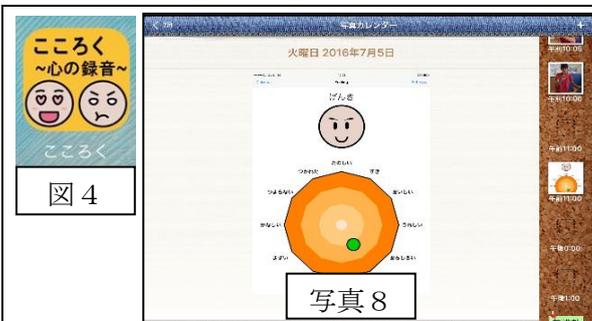


図 4

写真 8

写真と日々の様子を書き込んでもらった（写真7）。それから、（図4）の「ココろく〜心の録音〜」というアプリを6月20日から活用して、その時の気持ちを表情の絵で確認した。さらに、その表情のカードも準備し、普段のやりとりの中でもそのカードを活用できるように持ち運んでもらった。確認した気持ちをスクリーンショットに残し、（図3）の「PhotoMemos」のカレンダーに蓄積した（写真8）。

養護教諭は、毎朝晩の測定記録を書いた健康観察表のデータをもとに、（図5）の「BPNoteLife」というアプリに入力し、その後、担任が作ったカレンダーに貼り付けた（写真9）。

また、これまでの血圧や体重の変化の様子から、朝の最高血圧が140 mmHg以上を血圧が高い、体重が3.2 kg以上を増加傾向と決め、「PhotoMemos」のカレンダーに顔の浮腫みの状況やその日の気分・健康状態のアイコン（表2）とともに書き加えた（写真10）。



図 5

写真 9

アイコン		
むくみ	😊	むくみなし
	😞	むくみあり
様子	😡	いらいらあり
	😷	風邪気味 マスク着用

表 2 健康状態のアイコン説明



写真 10

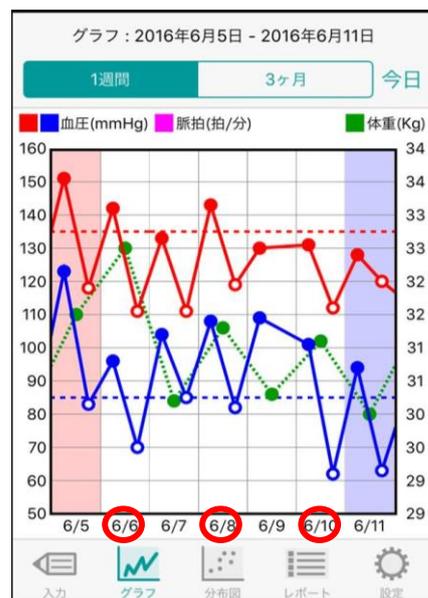


写真 11 ○は、透析日

・カレンダーからの読み取り(対象生徒の事後の変化)

データの蓄積から読み取れたこととして、①血液透析の日の朝（月・水・金）は顔のむくみがある②血液透析翌日（火・木）はむくみがない③血液透析翌日（火・木）は血圧が下がるの3点の傾向があった（写真11）。これは、慢性腎不全の病態と治療の効果が示されていると考えられるが、常にそのような結果があったわけではなく、月によっては1週間血圧が高い週も見られた。

その後の蓄積したデータと担任が記録した1日の様子と照らし合わせてみると、顔のむくみがある日に転倒がみられることや学校見学などの来校者がいると落ち着きがない、6限目まである日は活動が長く疲れがたまりイライラしやすいことなどが分析できた。この分析結果を生かして、むくみのある日には転倒に気をつかう、疲れがたまりやすい日は気をまぎらわせる対応をする等、教員が対応を考えた。

生徒Aの変化として、iPadを活用した健康チェックをほぼ毎日のように担任としていることから、健康チェ

ックという行為が定着してきたと考えられる。

担任から、1学期の変化として4月の頃よりも泣き叫ぶ等の行為が減ってきているようだという意見があり、2学期以降は担任やクラス担当の教員に対し抱きついて甘えるようなしぐさをし、気持ちを表出するようになったことの変化を聞いた。

【報告者の気づきとエビデンス】

【活動1】

・主観的気づきとエビデンス

活動1を通して、視覚的支援が有効で達成感や自信になったのではないかという気づきを得た。今年度は、できるだけ本番に近い動画を活用した事前指導を毎回繰り返して行ったことで、見通しがもて不安がなくなったと考えられる。その結果、教員の補助を必要とすることなく一人で笑顔ですべての定期健康診断項目を受診することができた。それは生徒Aに限らず、昨年度は受けることができなかった生徒が今年度はこの事前指導を行い、受けることができたことにも当てはまると考えられる。さらに、後から受診時の様子の振り返りを行ったことで、成功したことを再度確認することができ、達成感や自身になった。また、成功感を教員と共有することで次の意欲にもつながったと考えられる。

・その他エピソード

9月以降は、定期健康診断の事前指導の要領で、教室から保健室までの道のりを含めた体重測定動画を作成し、事前指導と体重測定を実施した。初回から一人で体重測定を行うことができ、その後も1人で実施できるようになった（写真12）。

その他に、達成感や誰かに褒められて自身をつけるという観点から、石けんやペーパータオルの補充など、保健室に物品を取りに行く仕事にも取り組んだ。自分で保管場所の扉を開けるなど、とても意欲的に仕事をしている（写真13）。仕事の後には、他の教員から「ありがとう」と褒められることでより自信がついている様子であり、嫌がることなく繰り返し仕事をしている。



写真12



写真13

【活動2】

・主観的気づきとエビデンス

活動2を通して、日々の様子を蓄積しデータを分析することで生徒Aの特徴をつかみ、対応に生かすことができた。具体的な気づきとして、①血圧が高めで顔のむくみがあっても活動には影響がないのではないか。②予期せぬ出来事がある日と、6限目まである日は、イライラするのではないか。③生徒自身が心や体の不調を動作や発語で伝える方がよいと気づいてきたのではないかと。という3点が考えられた。この気づきから、当初の担任等がその健康状態から本人の辛さに寄り添った対応をするというねらいに加え、健康チェックを繰り返していく中で、生徒A自身に健康チェックが身に付き、さらに、9月以降は自分の心や体の状態を表現することにもつながった（以下のエピソード参照）。

7/6 玄関の長椅子で横になるため担任が「疲れた」カードを見せると手に持ち、教室の教員に見せる。
9/8 朝の会中に雷が鳴り、担任に近寄りしがみつき、「こわい」を表現する。
9/14(軟便の日)給食の後、腹部を触り、担任の膝の上に頭をのせ寝転ぶ。「腹痛」「つらい」を表現する。
9/29 下校時玄関先で担任の膝の上に頭をのせ、横になる。「疲れた」を表現する。
※腹痛時は腹部を触る、疲れた時は教員の膝に寝転ぶ、不安な時は抱きつく・寝転ぶ・泣く等の感情表現が9月以降よく見られるようになった。
11/28 他クラスへ行き「嫌」と指をさし大泣きする。「嫌」を表現する。
12/1 登校時バスから降りて教員に「嫌」と抱きついて泣く。
12/9・12 嫌なことがあったとき、泣きながら他の教員に訴える様子が見られるようになった。
12/15 朝の会時に、喉に手を当てて何か伝えようとする。「喉が痛い？横になる？」の声かけでしばらく横になった。
12/15 給食後の歯みがき中に歯の痛みを訴え、養護教諭に伝えに行こうとする。保健室で歯の痛い場所を確認した。その後、指にカットバンを貼ってほしいことを落ち着いて伝える。
1/17 風邪症状・発熱で保健室来室時、「かぜ」のカードを選ぶ。
1/19 指にカットバンを貼ってほしいことを保健室に来て伝えることができる。傷の際は洗い流し、カットバンを貼るといふ流れが定着しており、自分から手を洗ったり処置台に座ったりする。
1/24 給食時に担任に悪態をつき、担任はその場を離れる。一人になると、普段関わりの薄い先生のところにはいかないが、元の担任をみつけると席を立てて向かっていく。
2/16 保健室に石けん補充の仕事に向かうが養護教諭が不在だった。その後、校内を探しまわり、養護教諭を見つけると石けんを見せて補充をしたいことを伝え、一緒に保健室へ行く。

自分の状態を表現した例

・その他エピソード

その他にも、生徒Aが自分の状態を表現することが増えただけでなく、これまで以上に養護教諭との関わりが増え、信頼関係を築くことができた。関わりの薄い教員には助けを求めない様子(1/24)や、用事がある時には養護教諭が見つかるまで校内を探するという行動(2/16)が何度かあったことから、保健室や養護教諭が生徒Aにとっての拠り所として認識されたのではないかと考える。これらは、担任の協力を得られたことが最大の要因である。また、iPadに蓄積された経時的な情報は、視覚的に分かりやすく把握することができ、生徒Aの体調や1日の感情の変化、エピソード等の理解を担任と深めることができ、担任の考えに基づいた保健室での対応が可能となった。

・まとめと今後

今回の取り組みで、生徒のからだの健康管理や保健指導には、iPadを活用すると、養護教諭が直接関わらなくても、データ収集・管理・共有が手軽にできることが分かった。また、iPadは手軽に持ち運びができるので、担任も指導したいタイミングでの指導が可能であると感じた。今後は、感染症対策や熱中症対策などの指導ビデオを作成するなどして教材を増やして、手軽に活用できるようにしたいと考えている。

さらに、今回収集したデータを担任と話し合うことで、担任の指導方針も把握できた。今までも担任との情報交換は行っていたが、iPadという具体的な方法や収集したデータがあることで担任と話がしやすくなり、より踏み込んだ話もできた。その結果、保健室来室時など養護教諭の対応や普段のやりとりにも生かせるようになった。こうしたことから、今後は、さらに担任との情報共有のツールとしてiPadを活用していくために、データ収集や整理以外にもSNSの活用等を検討し、リアルタイムでの情報共有ができないかと考えている。